

# 自衛隊-靖国参拝と琉球弧(南西諸島) へのミサイル配備



写真左 2023年3月16日開設した陸自・石垣駐屯地

写真右 日米共同の負傷兵大量治療訓練 2023年2月19日大分県・日出生台演習場  
(左 米海兵隊員、右 陸自隊員)

2024年3月22日 カトリック正義と平和協議会 木元茂夫

# 靖国神社宮司に元海将の大塚海夫氏就任

- 1960年生まれ。東京都出身。暁星小学校、暁星中学校・高等学校を経て、1983年（昭和58年）3月、防衛大学校機械工学科（第27期）を卒業後、海上自衛隊に入隊。1997年（平成9年）ジョーンズ・ホプキンス大学ポール・H・ニッツェ高等国際関係大学院修了、国際公共政策学修士。  
靖国神社の宮司になるような経歴は見当たらないが
- 2010年（平成22年）12月20日：練習艦隊司令官
- 2011年（平成23年）12月1日：海上幕僚監部指揮通信情報部長
- 2014年（平成26年）10月14日：自衛艦隊司令部幕僚長
- 2015年（平成27年）8月4日：海将に昇任、海上自衛隊幹部学校長
- 2017年（平成29年）12月20日：第9代 情報本部長
- 2019年（令和元年）12月20日：退官
- 2020年（令和2年）9月16日：ジブチ国駐劄特命全権大使
- 2023年（令和5年）11月21日：在ジブチ特命全権大使を離任
- 2024年（令和6年）4月1日：靖国神社宮司に就任予定



# 防大生の靖国神社参拝も行われている

- 自衛官護国神社合祀事件
- 原告の夫であった自衛隊員は1968年1月12日、公務中に発生した交通事故で殉職した。
- 葬儀は仏教式で行われたが、原告の女性Xは従来から信仰してきたキリスト教の教会に夫の遺骨の一部を納め、故人を追悼した。
- 自衛隊員のOB組織である、社団法人隊友会山口県支部連合会（以下「県隊友会」と）は、以前からの慣習として殉職した山口県出身の自衛隊員を山口県護国神社に合祀していた。
- 1988年最高裁判決

# 1988年最高裁判決

## 木原防衛大臣の「事務次官通達見直し」発言

- 被上告人は、本件合祀申請によりXの合祀がされ、法的利益を侵害された旨を主張するが、合祀は神社の自主的な判断に基づいて決められる事柄で、本件合祀申請は合祀の前提としての法的意味をもつものではないことは前記のとおりであるから、合祀申請が神社のする合祀に対して事実上の強制とみられる何らかの影響力を有したとすべき特段の事情の存しない限り、法的利益の侵害の成否に関して、合祀申請の事実を合祀と併せ一体として評価すべきものではないというべきである。
- そうであつてみれば、本件合祀申請が右のような影響力を有したとすべき特段の事情の主張・立証のない本件においては、法的利益の侵害の成否は、合祀それ自体が法的利益を侵害したか否かを検討すれば足りるものといわなければならない。
- また、**合祀それ自体は県護国神社によつてされているのであるから、法的利益の侵害の成否は、同神社と被上告人との間の私法上の関係として検討すべきこととなる。**



防衛省内慰霊碑地区 2017年3月見学

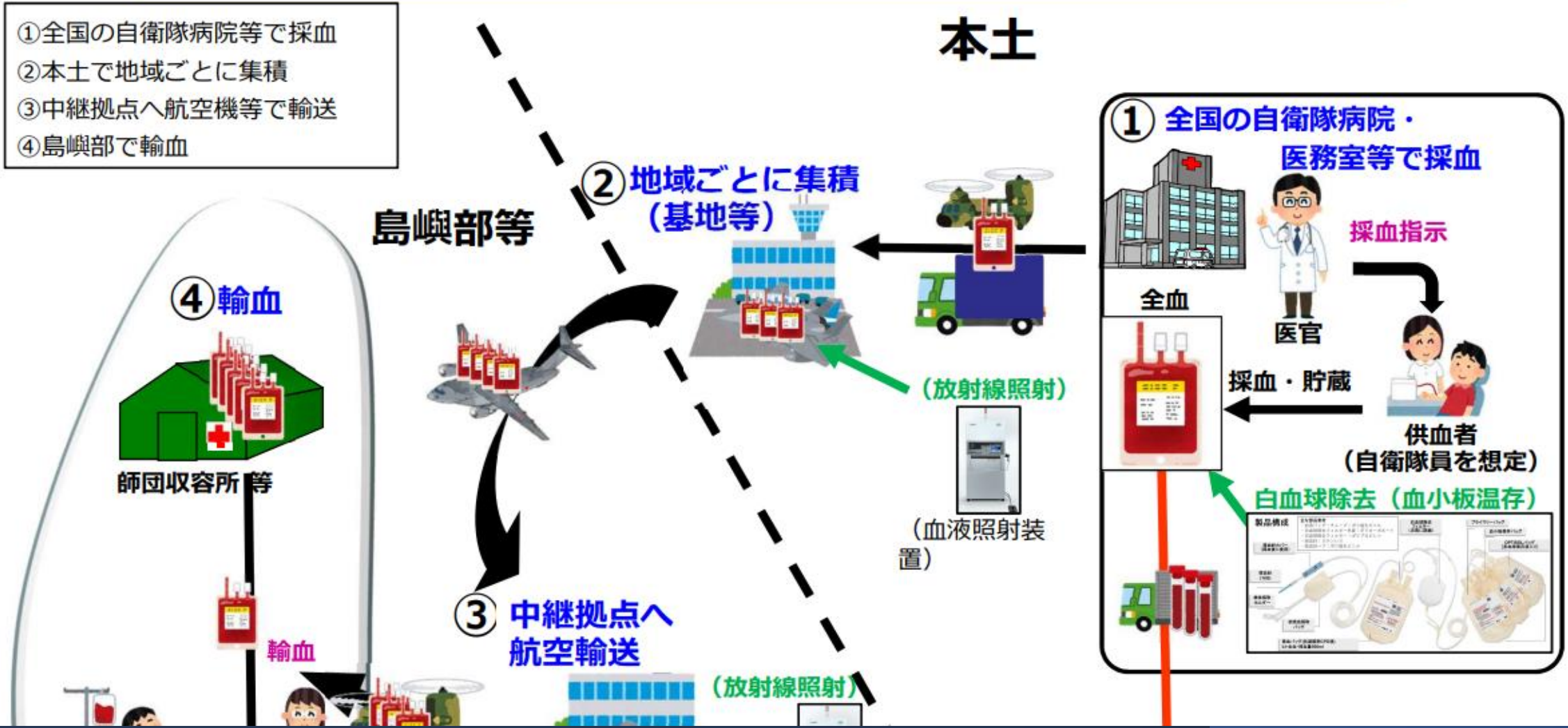


# 慰霊碑地区

- 中央下の球の上に載っている鳥は、「平和の象徴のハトです」と説明があった。
- 2023年10月の追悼式では新たに26人の殉職隊員が加わり、1950年の警察予備隊発足から数えると2080人の隊員(陸自1122人、海自490人、空自437人、機関31人)が殉職しています。

**(案) 有事における自衛隊病院等で採血した血小板温存全血を用いた輸血要領  
(広義の隊員間輸血のイメージ)**

- ①全国の自衛隊病院等で採血
- ②本土で地域ごとに集積
- ③中継拠点へ航空機等で輸送
- ④島嶼部で輸血



# 転換点となった2021年

英空母クイーンエリザベスの横須賀入港 21年9月4日





# 中華人民共和国

黒枠は台湾の防空識別圏

赤線は中国軍機の  
進入経路



台湾



ラオス

タイ

カンボジア




10月4日～9日 南シナ海で空母クイーンエリザベス打撃群9隻と海自護衛艦「しらぬい」が共同演習。原子力空母カールビンソンも、この海域に移動。

フィリピン

10月2日～3日 「沖縄南西海域」で6ヶ国合同艦隊17隻が共同演習。原子力空母カールビンソンとレーガン、空母クイーンエリザベス、海自のヘリ空母「いせ」などが参加

パラオ



## 高機動ロケット砲システム・ハイマースを 沖縄から八戸へ空輸

- 【領域横断作戦と機動展開前進基地作戦(EABO)を踏まえた連携 ～レゾリュート・ドラゴン21～】
- ※ EABO:Expeditionary Advanced Base Operations
- 令和3年12月4日から同年12月17日の間、東北方面隊を担任部隊として令和3年度国内における米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン21(RD21)」が、東北の王城寺原演習場を主体として、八戸駐屯地、岩手山演習場、霞目駐屯地、そして北海道の矢臼別演習場において実施されました。
- 本訓練には、陸上自衛隊から東北方面隊の第5普通科連隊等の人員約1,400名、米軍から第3海兵機動展開部隊の第4海兵連隊等の人員約2,600名が参加し、令和3年度に米海兵隊と国内で実施した最大規模の実動訓練となりました。



日米共同対艦戦闘訓練を初めて実施-三沢沖  
対艦ミサイルで沖合の艦艇を、ハイマースで上陸してきた相手国の部隊を攻撃



海自の大型揚陸艦が宮古  
島にミサイルを搬入した。  
2021年11月14日



ミサイルの搬入に抗議する宮古島の人々

# 22年7月 環太平洋合同軍事演習

## ■自衛隊の訓練の特徴その2 - 日米共同対艦攻撃

横須賀から「いずも」出港、横浜NDから地対艦ミサイル部隊をハワイへ輸送



横須賀基地前での抗議行動 6月13日

写真右 対艦ミサイルを撃ち込まれて炎上する艦艇(US.NAVY)

陸自は12式地対艦ミサイルの実弾を発射、洋上の退役艦艇を撃沈する訓練に参加  
中国の艦艇を攻撃することを想定した訓練



# 22年11月 自衛隊統合演習

ヘリ空母「いずも」から水陸機動団を揚陸させる

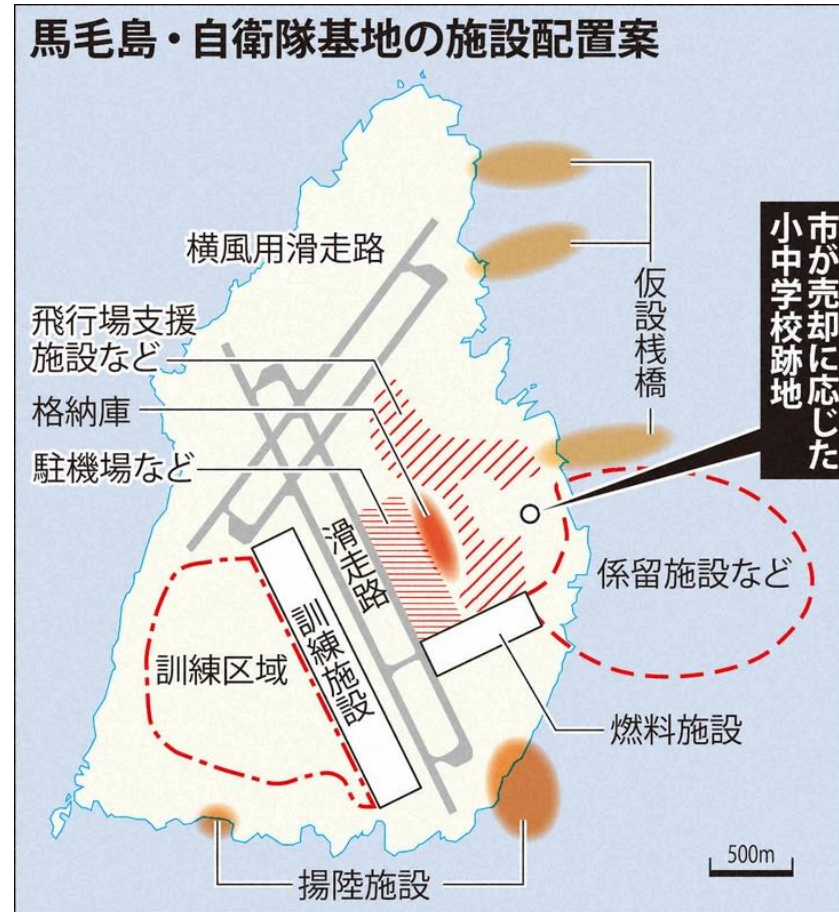


# 強襲揚陸艦トリポリに着艦するオスプレイ





# 鹿児島県の馬毛島一島全体を自衛隊基地に 空母艦載機のFCLPを25年から実施



# 「台湾有事」が勃発する可能性は極めて低い

## 2024年1月の台湾総統選の結果と、その後の対外政策に



参考 野嶋 剛 『台湾とは何か』 ちくま新書 2016年  
岡田 充 海峡兩岸論(WEB SITE 毎月更新)

- 中華人民共和国の国連加盟(1971年)  
アルバニア提出決議案(中国招聘・国民党政府追放)の国連総会での採択結果  
賛成76 反対35 棄権17 無投票3
- 台湾 人口2320万人 少子高齢化で減少中  
澎湖、金門・馬祖、東沙島、南沙諸島太平島
- 台湾の軍隊 総兵力16万人  
「海軍陸戦隊を含めた陸上戦力が約10万人であり、このほか、有事には約166万人予備役兵力を投入可能」(「令和3年版防衛白書」)
- 最大企業 台湾積体電路製造(TSMC)  
世界最大の半導体受託製造メーカー  
アリゾナ工場2024年完成、南京工場2018年から稼働  
(太田泰彦『2030半導体の地政学』)

# 4月21日 フランス領ポリネシア駐屯軍

フリゲート艦プレリアル横須賀入港-4月8-9日台湾海峡通過



●フランス海軍太平洋管区司令官ダンディニ工海軍少将の発言

「台湾海峡を通過することは挑発ではなく、国際法にのっとった通常の航行です。妨害行為はなかった。中国軍の艦艇、航空機が監視していた」

# フランス領ポリネシアとソロモン諸島

## 駐屯軍と海自の共同訓練増加

ソロモン諸島  
(地名ではなく国名  
です)

人口 約67万人

22年4月  
中国と安保協定締結。米国激烈反応  
ガダルカナル島は  
アジア太平洋戦争  
の激戦地  
日米両軍の残した  
不発弾で今も死傷  
者がでている。



© Infobase Learning

人口 約28万人

駐屯軍 約1500人  
海兵連隊 約900人  
海軍 約600人

オーストラリアと日本は  
22年1月、相互アクセス  
協定を締結し、日米豪の  
共同訓練が増えている。

# 核兵器搭載能力を持つラファール戦闘機

## 原子力空母シャルル・ド・ゴールとヘリ空母「いずも」



「シャルル・ド・ゴール」の艦載戦闘機ラファールMは、熱核弾頭を搭載するミサイル「ASMP-A」の運用能力を備えています。ASMP-Aは、2010(平成22)年からラファール戦闘機への搭載が開始された、射程600kmを誇る超音速巡航ミサイルで、敵の防御をすり抜けて目標へ正確に命中する能力を有する、と言われています。

横須賀に配備されている原子力空母は、毎年1月～4月に原子炉の周りを含むメンテナンス作業を行い、**放射性廃棄物**の入ったコンテナを搬出している。



2024年  
原子力空母レーガンは、  
再びワシントンに交替の  
予定



米・インドネシア合同演習  
ガルーダシールドに  
陸上自衛隊・第1空挺団  
が初参加

空挺降下の場所は、アジア太平洋  
戦争で旧日本陸軍が行った  
パレンバン降下作戦の場所に近い  
(1942年2月14日)

マラッカ海峡、スンダ海峡、ロン  
ボック海峡、など海上交通の要衝  
に近い

バトゥラジャ演習場において 空挺降下及び降下に引き続き地上戦  
闘訓練を実施しました。(陸自FBより) 2022年8月

# 米インド太平洋軍司令官も ガルダ・シールド演習を視察



「当軍は国益の保護を達成することを目的として尽力し、可能な限り協力を図り、そして必要に応じて自由で開かれたインド太平洋を維持するために立ち向かう構えである」(21年4月30日司令官就任式で)

サングラスの男性は、ジョン・アキリーノ  
米インド太平洋軍司令官 在日米軍上部組織  
(司令部ハワイ、海軍大将)、

21年3月23日 米上院  
「中国は台湾を軍事的に圧倒することを目的  
に兵器やシステムを急速に増強しており、6年  
以内に軍事行動を起こす可能性がある」

バイデン米政権がインド太平洋地域で米軍の  
作戦拠点を拡大している。太平洋島しょ国の  
3カ国と1兆円近くの経済支援をテコに軍事  
協力を深め、米領グアムやフィリピンにも部隊  
を分散させる。中国に対処するため太平洋で  
防衛線を張る。

米インド太平洋軍のジョン・アキリーノ司令官  
は20日、上院軍事委員会の公聴会で中国を  
念頭に「インド太平洋で戦争は不可避ではな  
い。差し迫って.. 23年4月21日「日経」

左はインドネシア国軍のペルカサ司令官。



# ガルーダシールド2022に日本が初参加 2023年も実施と陸上幕僚監部は発表



8月1日から14日まで行われたこの年次訓練で行われた初の活動はこれにとどまらない。  
今回の「ガルーダ・シールド2022」は、その規模から「スーパー・ガルーダ・シールド」と呼ばれ、  
オーストラリア、日本、シンガポールが初参加。

- ・ インドネシア国軍の司令官であるアンディカ・ペルカサ大将 (Gen. Andika Perkasa) と米国太平洋陸軍 (USARPAC) の司令官、チャールズ・A・フリン大将 (Gen. Charles A. Flynn) が率いてバトゥラハ戦闘演習センターにて開始された演習には、4,300人以上の要員が参加。インドネシアと米国のほか、演習には、オーストラリア、フランス、日本、マレーシア、ニュージーランド、パプアニューギニア、シンガポール、韓国、東ティモールを含む12か国が加わり、カナダ、インド、英国がオブザーバーとして参加した。
- ・ ガルーダ・シールドでは海上作戦も重視し、インドネシア、シンガポール、米国の軍艦が初めて合同で演習を実施した。
- ・ フリン司令官は演習の開始にあたり、「我々がこのように一緒にいるとき、我々はより強くなる」と述べ、「チームワーク、相互運用性、そして自由で開かれたインド太平洋を守り、法治に基づく秩序を維持しようとする国家群としての結束を示す重要な機会」だと呼びかけた。

# 陸自は陸上総隊の幕僚長も参加していた

パラシュート降下部隊(第1空挺団)だけではなく、陸自全体の動きに



インドネシアの兵士に空挺徽章を付ける  
左 米太平洋陸軍司令官 フリン大將  
中 陸上総隊幕僚長 牛島陸将

ガルダ・シールドでは、武器の相互運用性と現場での調整、衛星のサポートと識別、敵味方システム、ジャングルでのサバイバルと都市地形訓練など、さまざまな活動と能力に焦点を合わせた訓練のほか、水陸両用作戦や飛行場奪取訓練も実施された。

INDO PACIFIC DEFENCE FORUMより

# 米軍、フィリピンに新たに4拠点を確保

・ ロジコ大佐は、「船の撃沈は、作戦レベルで相互運用が可能であることを証明するための手段に過ぎない」と語った。さらに、「我々が実証しようとしているのは、戦闘態勢が整っていること、そして、陸・空・海から目標に合わせた攻撃を行う能力があることだ。

いかなる演習も、戦闘態勢を証明するものだ」と言葉を続けた。

・ 指揮所演習、サイバー防衛演習、実地訓練演習、人道市民支援の4大イベントの実施が予定されている。

・ また、パトリオットミサイルやアベンジャー防空システムの実弾発射や、**中国が人工地盤に軍事拠点を築いているパラワン州沖で敵に奪われた島を奪還する模擬作戦も実施される予定だ。**

・ INDO PACIFIC DEFENCE FORUMより **ファイアリークロス礁(中国軍基地)**

◆ フィリピン政府が発表した4か所の候補地



# フィリピンでも過去最大規模の軍事演習 バリカタン23-日本はオブザーバー参加



ロケット弾を発射する、  
米陸軍の高機動ロケット砲システム  
「ハイマース」

●「フィリピンにある4カ所の基地に米軍が駐留するというのは、インド太平洋戦略の一環として、南シナ海付近での米軍のプレゼンスを拡大させることになるでしょう。

●米国の戦略的意図の一つは、バラバク島に前進基地を建設することです。バラバク島は、中国が開発を進めている南沙諸島に面しています。したがって、この島を前進基地として利用する米国の意図は明白です。これは、中国をはじめとする南シナ海流域の国家に対する米国の情報活動や軍事的圧力を強化するためにも重要です。

●米海軍と空軍を複合的に展開するための多目的基地をバラバク島に設ければ、将来、この地域全体における軍事作戦において米軍に後方支援と物資を提供できます。

中国南海研究所の専門家チェン・シャンミャオ氏 日刊ま  
にら新聞より

# 「力による現状変更」をやろうとしているのは誰か フィリピンに12,000名の兵力を展開したアメリカ

- フィリピンと米国は2023年4月10日、南シナ海に面した海域でロケット弾を発射して退役した海軍艦艇を沈めるなど、過去最大規模の合同軍事訓練を開始した。
- **フィリピン軍(AFP)と米国軍から17,600人以上**が参加し、3週間にわたり開催される「バリカタン2023」で、海上警備、水陸両用作戦、実戦訓練、都市・航空作戦、サイバー防衛、対テロ、人道支援・災害救援準備などの相互運用性と能力を高める訓練を行っている。
- フィリピン軍参謀長のアンドレス・センチノ(Andres Centino) 大將は、今回の訓練は同盟国間の関係を強化し、「インド太平洋地域の平和と安定に断固たる形で貢献する」と述べた。



## INDO PACIFIC DEFENCE FORUMより

2018年のカマンタグ演習には水陸機動団を参加させた陸上自衛隊。米軍のドック型揚陸艦に水陸両用装甲車(AAV7)を搭載して上陸訓練を行った(写真)。交通事故で隊員2名が重症、1名(38歳)が死亡。だが、今回はオブザーバー参加にとどまったようだ。米軍が設定したあまりに過激な訓練内容に腰が引けた、という印象を受ける。

# 安保法制施行(2016年)後の日米・多国間共同訓練の特徴

## 「島嶼」での戦争・軍事衝突を見据えた訓練の拡大

- 共同訓練の地理的拡大－日米安保の「極東」の範囲を逸脱  
アデン湾、インド、南シナ海、フィリピン、インドネシア、中部太平洋、オーストラリア等
- 陸自 日米共同対艦戦闘訓練（環太平洋合同軍事演習2018年～、レゾリュート・ドラゴン2021年～）
- 地対艦ミサイル、高機動ロケット砲システムハイマース ↑ 厚木基地が中継基地に
- 陸自 日米共同パラシュート降下訓練(日本国内・インドネシア)－離島への戦力投入
- 陸自・海自 大型揚陸艦を使用し、水陸両用装甲車(AAV7)、高速上陸用舟艇(LCAC)、大型ヘリで上陸訓練 日本国内(徳之島2022年・種子島21年)、フィリピン-18年陸自隊員1名死亡
- 海自 海賊対処派遣の継続 空母クイーンエリザベスと訓練(21年7月)、仏原子力空母ドゴールと訓練(23年1月)
- 海自 日米哨戒機の訓練(厚木と鹿屋にいるP-1哨戒機、米空軍P-8哨戒機厚木にも飛来)
- 海自 南シナ海で日米共同の対潜訓練 2021年 海自潜水艦の南シナ海での活動実態は不明
- 空自 フィリピンに戦闘機2機を戦後初めて派遣22年12月

# 4月25日 尹錫悦－バイデン米韓首脳会談

## 「核協議」新設、戦略原潜-韓国派遣



戦略原潜オハイオ級 全長171mの巨大艦。米海軍は14隻保有  
核兵器搭載可能な射程12000キロの弾道ミサイルを20基搭載  
●広島投下原爆 15キロトン ●トライデント 100キロトン  
戦略原潜をトマホーク巡航ミサイル搭載型(154発)に改造した  
ものが4隻あり、横須賀にも何度か寄港した。

# 自衛隊は日本海で何をやっているのか こんな訓練を年に何回も繰り返している



訓練では、強固な日米同盟の下、あらゆる事態に対処する日米の強い意思と自衛隊と米軍の即応態勢を確認するとともに、共同作戦能力の更なる強化を図りました。

1 期日 令和5年4月14日(金)

2 訓練場所 日本海上の空域

3 参加部隊 (1)航空自衛隊 F-15 戦闘機×4機(第6航空団)

(2)米軍 B-52爆撃機×2機、F-35戦闘機×4機、KC-135空中給油機×2機

4 訓練項目 各種戦術訓練



# トマホーク巡航ミサイル

安保3文書-「国家防衛戦略」には

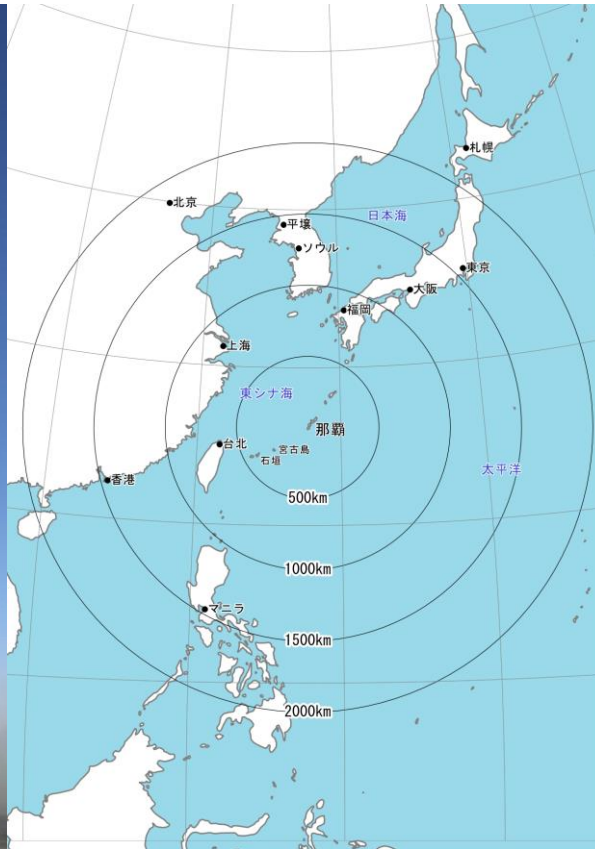
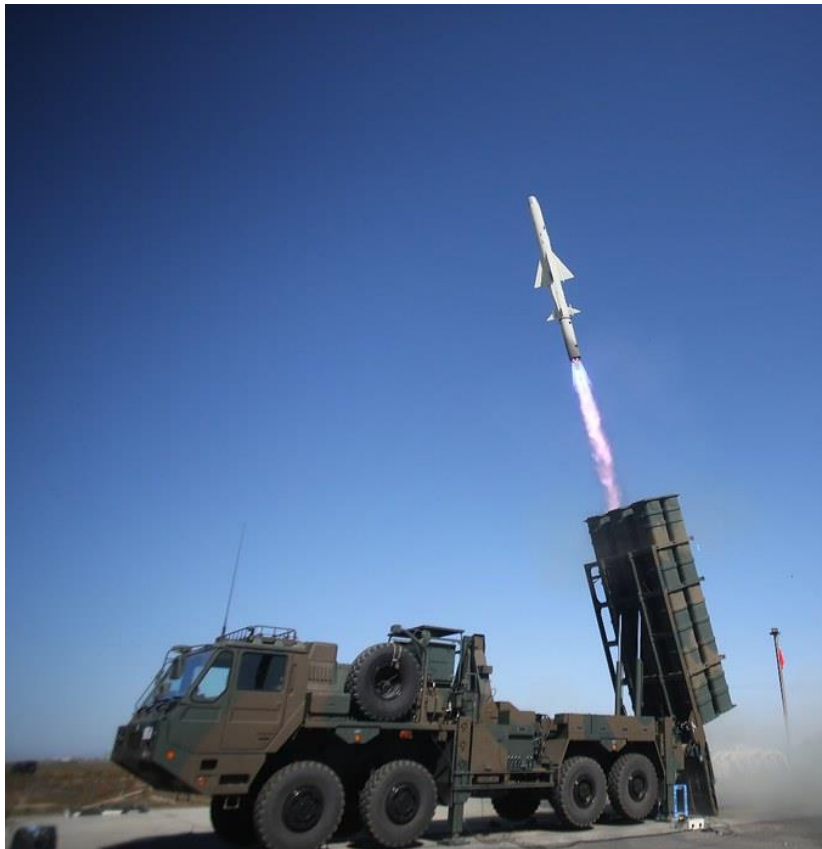
- 我が国の反撃能力については、情報収集を含め、日米共同でその能力をより効果的に発揮する協力態勢を構築する。
- 海自のイージス艦8隻すべてにトマホークV(射程1600キロ)を搭載。
  - 23年度予算 取得費 2,113億円400発
  - 関連機材の取得費 1,104億円イージス艦改修費用を24年度から順次計上する。(2月13日防衛省交渉)

写真右 米海軍のイージス駆逐艦から発射されるトマホーク(US.NAVY)



# 12式地対艦ミサイル-熊本・健軍駐屯地と、 奄美大島と宮古島に配備、石垣島にも配備(3月18日)

現在の射程は約200km→能力向上型は1000km以上 上海と東海艦隊の舟山基地が  
23年度防衛予算 地上発射型の量産費 939億円、地発・艦発・空発型開発費 338億円



12式地対艦誘導弾能力向上型の地発型は、2021年度から継続している開発事業のこれまでの成果、既存の対艦ミサイル技術やノウハウの蓄積等により、量産の目途がたったことから、開発事業と並行して2023年度から量産に着手することとしています。

導入予定数及び単価については、これを明らかにすれば、自衛隊の能力が推察されるおそれがあることから、その詳細を明らかにすることは差し控えます。  
(2023年2月13日防衛省回答)

観光客らの前を通過する弾薬を載せた車両＝18日午前9時50分ごろ、730交差点



## 市民の多くが知らぬ間に

弾薬類を載せた大型車両がパトカーを先頭に長い列をつくり、市街地のメイン通りを抜けて農業集落を通過していく。18日午前、ミサイルなどの弾薬類が南ぬ浜町から石垣駐屯地に運ばれた。公道は物々しい雰囲気にも包まれたが、時刻やルートは公表されなかったため多くの市民の目に触れることなく搬入された。

午前9時50分ごろ、730交差点では足早に離島タミナルを自指す観光客らの姿。車体前後に「火」と赤く表示された大型車両の走行に20代女性「北海道は「おっかない。北海道でも千歳の方で自衛隊車両が走っていることはあるが、弾薬類を積んだ車がこんな街中を走るなんて怖い」と驚いた様子。

## 石垣駐屯地 弾薬が市街地を走行

# 異様な光景、「怖い」

「中山市長は専権事項と言ったの言われるままに事を進めさせ、基地ができる地域のことば考えていないのではないかと憤りをにじませ、「市街地に住んでいる方は開南や茂登地城のことを知らない方も多いと思う。私たちの生活は今後どうなるか」と声を落とした。

新川地区で車列を眺めていた60代男性は、自衛隊配備に災害支援を期待する一方、「与那国、宮古、石垣に駐屯地ができたことで中国と台湾の問題がさらに心配になってきた。戦争を起させないようにすることが政治の当たり前の姿だと思つ」と望んだ。

名蔵地区の手前では数百人の渋滞が発生。道路沿いの畑で農作業をしている80代男性は「いったい何事か」と心配そうに車列を指さした。

開南地区では、5日の車両搬入に続き集落前を弾薬が通過。50代女性は「怒りを通り越して今は諦めている。やっぱり国や権力には負けてしまうのか」と深くため息をつき、「やっぱり住民投票はやってほしい。当初は住民投票で勢いをつけていこうと、地域にも明るい兆しがあった」と悔やむ。

「八重山毎日新聞」 3月19日

- 3月05日 車両搬入。抗議行動と全国集会
- 3月16日 編成完結式 井戸川一友第15旅団長と井上雄一郎駐屯地司令が中山市長を訪問
- 3月18日 大型揚陸艦「おおすみ」石垣港入港、ミサイル陸揚げ、駐屯地へ搬入。コンテナ18個。

- 3月22日 石垣駐屯地開設説明会  
主催 石垣市、沖縄防衛局、石垣駐屯地
- 4月02日 石垣駐屯地開設記念式典  
浜田防衛相出席

- 4月06日 宮古島市の伊良部島付近で、陸自第8師団長、宮古島駐屯地司令らに乗せたUH60JAヘリが墜落。
- 4月08日 宮古島市の下地島空港に在韓米軍のF16戦闘攻撃機2機が緊急着陸。嘉手納飛行場にF15E戦闘爆撃機が6機飛来

# 南西地域における陸上自衛隊駐屯地等の設置状況

(注)人数は常備自衛官の定数

2019年3月

## 奄美大島 (奄美市/瀬戸内町)

- ・ H 3 1. 3 奄美駐屯地/瀬戸内分屯地開設
- ・ 警備部隊、中距離地对空誘導弾 (中SAM) 部隊、地对艦誘導弾 (SSM) 部隊等を配置
- ・ 隊員数: 約 6 1 0 名 (令和 4 年度末)

2023年9月 沖縄・陸自勝連分屯地にも地对艦ミサイル配備予定

2023年3月

## 石垣島 (石垣市)

- ・ R 5. 3 石垣駐屯地開設
- ・ 警備部隊、中距離地对空誘導弾 (中SAM) 部隊、地对艦誘導弾 (SSM) 部隊等を配置
- ・ 隊員数: 約 5 7 0 名 (令和 4 年度末)

2023年1月 馬毛島工事開始

2016年3月

## 与那国島 (与那国町)

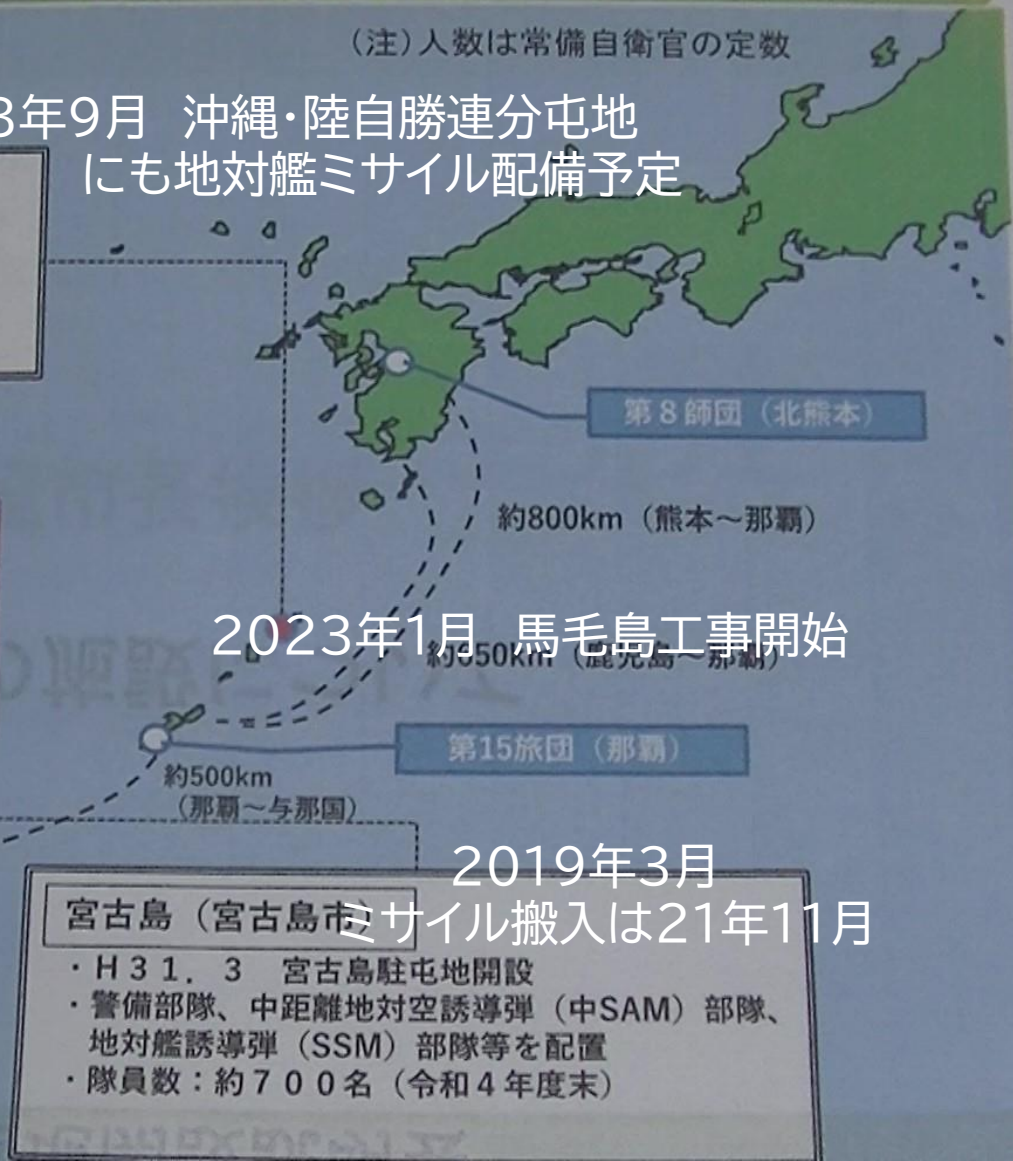
- ・ H 2 8. 3 与那国駐屯地開設
- ・ 沿岸監視隊等を配置
- ・ 隊員数: 約 1 7 0 名 (令和 4 年度末)

2019年3月

## 宮古島 (宮古島市)

- ・ H 3 1. 3 宮古島駐屯地開設
- ・ 警備部隊、中距離地对空誘導弾 (中SAM) 部隊、地对艦誘導弾 (SSM) 部隊等を配置
- ・ 隊員数: 約 7 0 0 名 (令和 4 年度末)

ミサイル搬入は21年11月





石垣駐屯地の遠景 47ha

# 石垣駐屯地の火薬庫 3棟完成

駐屯地の外側の道路から3月16日撮影



2023年、24年も工事は続く。

↓ 住民説明会資料より

石垣駐屯地における今後の工事スケジュールについて

年度	R4'	R5'	R6'以降
木工所	駐屯地開設 令和5年3月16日		
車両整備場B			
火薬庫A			
倉庫・覆道射場 等			

までの道のりを感慨深げに振り返る場面もあった。

だが、反撃能力のある「スタンド・オフ・ミサイル」の配備の可能性については、「具体的な配備先はまだ決まっていない」と、従来通りの回答だった。

玉城デニー知事が明確に反対し、石垣市議会も与野党双方が説明を求めて意見書を可決するなど、不安は根強い。浜田氏は配備先が決まっていないことを理由に、地元への説明会につい

ては「実施するか、否かについても、お答えできる段階にない」と述べた。

浜田氏の対応に地元選出県議の受け止めは割れる。

理解を示すのは、式典に出席した大浜一郎県議（沖縄・自民党）。3月30日の県議会2月定例会最終本会議では、反撃能力が配備されると警戒する県政与党に対し「ミスリードだ」と不快感を示していた。式典後の本紙の取材に「何も決まっていないことを問題視す

るのはよくない」と指摘。「開設は抑止力に加え、災害対応への貢献も大きい」と期待した。

一方、県政与党の次呂久成県議（おきなわ南風）は、国の対応を批判する。

「安全保障に関わるため控えさせていたたく」と回答して反発をかわし続け、最後は『国の専権事項』で諦めさせるのが政府の常とう手段だ。逃げの姿勢は地元住民にとっても失礼だと批判した。

## 日米共同「非常に重要」

### 井上駐屯地司令一問一答



陸上自衛隊石垣駐屯地開設の記念式典で、浜田靖一防衛相（左）から隊旗を受け取る駐屯地司令の井上雄一師団長（右）と井上駐屯地司令の井上雄一師団長（右）と

駐屯地の周辺では市民らの抗議の声もあった。

「なぜ駐屯するのか、どういう能力を持って島にいるのかしっかりと説明していきたい。また、家族を含む隊員は約830人が島民になる。地域の触れ合いなどを通し、八重山の歴史、伝統、文化、こういったものを学ぶというのは重要と認識している」

住民から迷彩服での街中の移動、通勤退勤に関して怖いという声もある。「迷彩服に国を守るという自覚と誇りを持って勤務

をしている。こうしたことを理解してもらおうように努めたい」

今後、米軍との訓練を予定しているのか。

「日米共同の使用や訓練は現段階では全く計画されていない。その上で、日米共同というのはわが国の防衛力、抑止力を高めていく上で非常に重要だと認識している。今後は連携強化を図っていく上でさまざまな議論、検討がされていくと認識している」

米海兵隊は島嶼をいかに守っていくかについて構想として持っている。われわれのような島嶼の初動を持つ部隊としても、連携は

4月3日「沖縄タイムス」隊員570人、家族260人  
県三役 動静 3日  
▲玉城知事 9時15分辞令交付式（政策調整監）、9時25分辞令交付式（病院事業  
▲照屋副知事・池田副知事 9時15分辞令交付式（政策調整監）、9時25分辞令交付式（病院事業局長）、9時25分辞令交  
▲松川官警備隊長  
▲松川官警備隊長  
▲松川官警備隊長  
▲松川官警備隊長

今後検討されている」

武力攻  
になった時  
民を守るの  
「国民隊  
治体の方々  
計画などを

# 石垣島駐屯地で

若い隊員に小銃を携帯させるのは、隊員に緊張感をもたせ、いざという時に躊躇なく発砲できる覚悟をもたせるためかもしれない。



小銃は携帯しているが、弾倉は装着していなかった。



# 石垣駐屯地で至近距離で向かい合った

右は2等陸士(任期制自衛官)あまりに若い、後方左は1等陸尉(幹部自衛官)



NHKの1月29日の夜11時からNHK-BS1の「誰が島を守るのか」

沖縄の陸自第15旅団に入隊する二人の若者に密着した番組。

2人の入隊同機は、不発弾処理や急患輸送に従事する自衛官を見て、人の役に立ちたいと思った、でした。

入隊一日目の夕方、上官3等陸尉から「お前たちは、場合によっては相手を殺すことがあるかもしれないが、その覚悟があるか」(あまり正確ではない)と問っている。

自衛官に命がけの戦闘を強いるのは、簡単なことではない。「教育勅語」や「軍人勅諭」で教育されてはいない。でも、そのための準備が始まっているのかも知れない。



駐屯地開設から1年経った  
ら-2024年3月11日  
イージス駆逐艦  
(DDG115)が石垣港に  
横須賀母港の艦艇

- トマホーク巡航ミサ  
イルなど、96発以上  
のミサイルを搭載



# 動く ミサイル基地

- イージス艦は射程1600kmの巡航ミサイルトマホークなど、
- 96発以上のミサイルを搭載



抗議する石垣島の人々

# 10日には客船アズマラジャーニーが停泊





石垣島に上陸し観光バスで市内に向かう  
イージス艦ラファエルペラルタの乗組員

# ラファエルパラルタ乗組員の上陸に抗議



# 石垣島以外の、自衛隊増強の動き

・川島貴樹防衛省整備計画局長は、 3月9日衆議院安全保障委員会

・「南西地域の防衛体制の強化は喫緊の課題でございます。したがって、事態が発生したときにおきまして、平素から南西地域に配備されている部隊及び南西地域に展開した部隊の活動を迅速かつ継続的に支援するため、沖縄訓練場の敷地の中に補給処支処を新編することを計画をしております。また、平成15年から共同使用を行っております嘉手納弾薬庫地区におきまして、**既存の火薬庫を追加的に自衛隊が共同使用することを本年1月の日米2プラス2の共同発表において公表されました。今後のことにつきましては日米間で詳細に調整がなされていくというふうに承知しておりますけれども、防衛省としては、引き続き、お伝えできる情報につきましては御地元の自治体等に適切に説明させていただきながら、本件を進めてまいりたいというふうに考えてございます」**

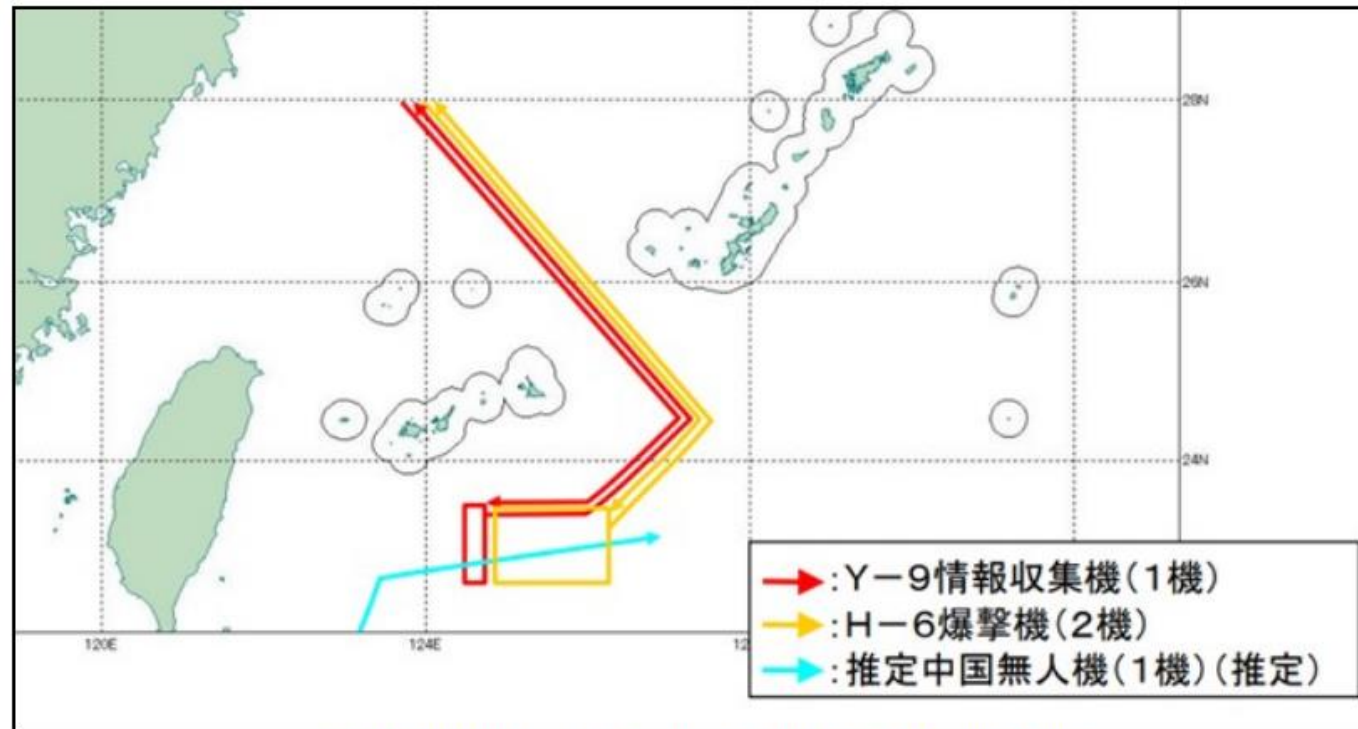
- ・勝連分屯地に12式地对艦ミサイルを配備
- ・沖縄の第15旅団を師団に増強(2,500人→4,000人規模か)
- ・嘉手納弾薬庫火薬庫3棟整備し、日米共同使用に
- ・与那国島、石垣島、宮古島へのPAC-3配備
- ・与那国島への03式地对空ミサイル配備－23年5月15日住民説明会



# いつまで、こんなことを繰り返すのか 日米の艦隊行動が拡大すれば中国軍も対抗措置をとる

- 令和5年5月11日 統合幕僚監部（お知らせ）
- 中国海軍艦艇の動向について
- 令和5年5月11日(木)午前0時頃、海上自衛隊は、伊豆諸島の須美寿島(東京都)の東約90kmの海域において、同海域を南西進する中国海軍ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦1隻(「艦番号「119」)、フチ級補給艦1隻(艦番号「889」)、**レンハイ級ミサイル駆逐艦1隻(艦番号「102」)**及びジャンカイⅡ級フリゲート1隻(艦番号「542」)の計4隻を確認した。その後、これらの艦艇が、須美寿島と鳥島(東京都)との間の海域を西進したことを確認した。なお、これらの艦艇は、4月30日(日)に対馬海峡を北東進した後、5月6日(土)に宗谷海峡を北東進したものと同一である。防衛省・自衛隊は、海上自衛隊第7護衛隊所属「すずなみ」(大湊)により、警戒監視・情報収集を行った。

# 米軍が動けば中国軍も動く 軍事力による抑止よりも外交で解決を



統合幕僚監部が3月12日に発表した中国軍機の航跡